

山梨県スポーツ指導者協議会会報

第五号

スポーツ指導者の活動促進

山梨県体育協会専務理事

雨宮周三



近年、都会化、生活の便利化などにより身体活動の機会が減少するとともに、社会の複雑多様化、高度化、高齢化など社会環境や、価値観が変化する中で改めて心身の豊かさ健やかさが問われている。

このような現代社会に生きる全ての人々にとって心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、心身ともに、健康で活力ある生活を営んでいく上で欠く事のできないものとなっており、都市化の一層の進行、情報化の進展などが、予想される二十一世紀の社会において益々その重要性は高まるものと思われる。

また、一方、コペンハーゲンで国連主催

で開かれた「社会開発サミット」において、貧困撲滅、雇用拡大、社会的統合を目指す『宣言行動計画』が採択され初めて「人間の安全保障」という国を守るのではなく、まず人間を守る」という発想から世界が動きだしている。

このような中で、スポーツの振興を目的とする本会では、地域ぐるみスポーツの推進と競技力の向上の並進を図りながら各種事業を展開している。

さて、スポーツ活動を成立させるためには指導者教本にもあるように施設サービスクループ・プログラム・情報・指導者の五つのサービスクループの一つのシステムとしてうまく噛み合うことが大切だとされている。とりわけ、スポーツ指導者は人々の多様なスポーツ欲求を大切に育て求めに応じ、親しまれ、愛されるスポーツ指導者像が求められている。

本県にはこのような公認スポーツ指導者が、七百九十人余り、地域に点在している

が、活動促進という面から見ると必ずしもスポーツ振興に、活かされていない、いや、活かしていないのが残念である。

日本体育協会では、本年度、新たに組織活動の促進と社会的地位向上を目的に研修会や協議会の開催さらには、地域におけるスポーツ振興に貢献した公認スポーツ指導者の顕彰など活動促進に力を入れている。

本県スポーツ指導者協議会においては、本年度県下を九地区に分けて支部組織づくりが喫緊の課題として組織づくりに着手している。

これは、同じ仲間同志がその地域において顔も知らない、連帯もない状況の中での活動は、当然のことながら無理なことである。急がず、自分たちの組織を育てながら地域のスポーツ行事に積極的に参加協力して自らの指導力を発揮していただきたいと思う。

そして県民生活の質自体に大きな影響を及ぼすスポーツの振興が、質の高いものとなるよう期待したい。

体協としても、スポーツ振興にとって指導者の養成、確保、資質の向上、活動促進は重要な課題として従来にも増した取り組みをして参りたい。

スポーツ指導者協議会 支部組織づくりについて

指導者協議会会長

一 木 昭 男

昭和六十三年文部大臣認定「社会体育指導者の知識・技能審査事業」制度が発足し、社会体育指導者の質的向上はヨーロッパ並になって来た。

本県も遅ればせながら、平成二年に新組織の指導者協議会がスタートした。現在登録されている指導者は、スポーツ指導者五百七十六名、コーチ六十二名、教師二十五、プログラマー七十八名、少年スポーツ指導者十三名、旧資格者四十名、合計七百九十四名である。

指導者が相互に連携を取りながら活躍するためには、他県の事情をそのまま取り入れても無理がある。それは、大部分の道府県は、コーチやスポーツ指導者別、競技種別の部会制度であって、本県は指導者の数が少ないので、個々に分散して効果的活動が期待できない。そこで、地域別の支部を作り、総合的に協力して行くことが最も活動しやすいと判断して、地域別支部作り

を始めることにした。まず県下を九地区に分けて、その地区に準備会を作るための代表委員をお願いして、その人達が核になって登録されている方々に呼び掛けて行く方法である。

その流れの一部を紹介すると、甲府支部の準備会の第一回会合では、約十名程の代表者がいろいろの意見を出し合って、真剣にスポーツ指導者の有効な活動の方法について話し合った。スポーツのニーズや対象者は、従来より広範囲になり、若年者から高齢者までの適切な指導能力には自信がある。他種目の指導は相互に交流しながら、専門能力の高い人が主体に進める。日体協のスポーツ教室等も積極的に対応して開催するなどの話題が出る。これらの事業を進めるためには、支部組織を作って全員に呼び掛けることが必要と言うことになり、競技種目別の人達に呼び掛けた方が顔見知りで連絡が取り安いと言うことになり、代表委員を十名程追加して、第二回、第三回の準備会を開き、充分な話し合いを進めた。新年度六月末日には甲府支部の発会を迎える計画を進めている。

他の支部も東山梨・東八代・中巨摩・西八代・南巨摩・北巨摩も準備会は同様に進

んでいる。

これらの支部組織が出来たときの展望として、市町村体協の行事に積極的に協力して行く。自分のところに専門の指導者がいないときは、他の地域から協力してもらおう。他競技種目やニュースポーツ等の研修や指導法の勉強も行なう。地域のスポーツ振興事業等に積極的に参加する。

各市町村長及び教育長に体育指導員の任用にあたっては、公認スポーツ指導者を採用していただきスポーツ行事の企画運営の立案にはスポーツプログラマー、その実施にはスポーツ指導者を活用していただける様御検討願いたい。他県では、すでに公的スポーツ施設の職員や団体の監督・コーチは公認スポーツ指導者を配置することを義務づけているところもある。

指導者自身に願うことで、日本レクレーション協会の蘭田氏は従来の指導者はカキケコ形（固い・厳しい・苦しい・権威主義・怖い）が多かった。今後の指導者はアイウエオ形（明るい・ちょうどいい加減・嬉しい・笑顔で・面白い）に変わることを提言している。市民のために楽しいスポーツを指導できる人が求められている。それに答える指導者になれるよう期待したい。

関東ブロック会議に 参加して

指導者協議会理事

松野 伝

平成六年度全国指導者連絡会議・関東ブロック会議は、七月二日（土）三日（日）の二日間、群馬県水上町で開催された。

主催者あいさつで日本体育協会スポーツ指導者育成部長の須山実氏は、「この会議は八ブロックに分けて開催しているが、共通テーマとして『公認スポーツ指導者制度の充実』を上げている。日体協としても五万五千人の登録指導者が、充実した活動ができるように努力していきたい」と述べ、更に指示伝達事項として、○日体協は赤字解消に努力中であり、平成六年四月一日付で機構改革を行なった。この機構改革にともない、スポーツ指導者育成部が発足した。○登録料の値上げについては、スポーツ少年団の七年度からが決定し、その他のものは積極的に検討する。○「体協時報」はリストラで廃止されたが「スポーツジャーナル」と「スポーツ少年」は従来通り発行し、「公認スポーツ指導者手帳」は内容を

少し変えて続ける。○日体協が指導者育成に取り組んで、平成七年で三十年になるので顕彰制度を検討している。等の報告があった。

基調講演は、内田元彦先生（日本体育協会理事、日本体育協会スポーツ指導者育成委員会委員）が行なった。講演の演題は

「ヨーロッパにおけるスポーツ指導者について」であった。その要旨はおよそ次のようであった。○ヨーロッパでは、国民一人一人が自己意識の下にスポーツを楽しんでいる。○スポーツが健康づくりの中へ解け込んできている。先進国においてこの傾向は特に著しく後進国においてはスポーツが競争意識の下に行なわれている。○二十一世紀はスポーツの組織・システムが重要になってくる。○ドイツでは、楽しむところに人があり、という感じで、スポーツが国民の健康の指針となっている。また、指導者が国民の中に解け込んで指導しており、競争の原理から、健康保持のためにいかにスポーツをするか。○青少年のモラルの問題や高齢者に生きがいをいかに与えるかがスポーツの課題となっている。

二日目は「体操クラブの指導育成について」と題して、群馬県スポーツ指導者協議会常任理事の相原俊子先生による事例発表

があった。「指導した結果が実ったときには、指導者に大きな喜びと充実感を与え、体操競技には特に補強・体力づくりが重要であり、相手が百人いれば百通りの指導が要求される。」ことが強調されていた。

この日の協議は、主として支部組織に関することであった。①支部組織はあるけれども、都市ごとの組織の活発な地域は少ない。競技ごとの組織のほうが発達である。

②活動の形態は、支部が独自に行なう自主活動よりも、行政や競技団体との連携によるほうが巧くいっている。③活動を行なうための問題点としては、活動そのものが停滞している。地方体協との連携の問題。予算不足。研修会への出席状況。等のことが各都県から報告された。

二日間の会議に参加して、スポーツ指導の難しさを再認識させられた。スポーツに親しむようになり、そして継続している人達にその動機を聞いてみると、「誘われたから、勧められたから、仲間がいるから」という理由が多く、他人からの影響の大きいことに気づく。人々の中に解け込み、皆から尊敬され必要と思われ、皆のために役に立つ指導者を、目指さなければならぬことを痛感した。

エンジョイ。

スポーツセミナー

スポーツ指導者協議会会長

一 木 昭 男

日本体育協会は平成四年度から、「国民スポーツ推進キャンペーン」として「スポーツ指導者の育成事業」と「スポーツ医・科学研究事業」について、大塚製薬の協賛を得て、公認スポーツ指導者の研修の機会を与える事業を開始した。一九九四年は全国で十八ヶ所で開催された。一九九五年には山梨県でも開催できるように強く要望した。

山梨県の開催が認められたのは、五月に入ってからで、開催条件として、参加者が最低二〇〇名を越えることや、大塚製薬の協賛のため、講演内容に熱中症やPRのための品物がよく出廻るために夏場の条件が要望された。

山梨県スポーツ指導者協議会は理事会を開催して、開催時期や場所、講演者等についていろいろの意見が出された。

会場については、敷島町総合文化会館が候補にあり、直接相談に行くと、スポーツ行事等でなかなか適当な期日が決められ

ない事情であったが、八月六日を無理に決めることにした。

講演者も何人かの候補者を立て、直接相談したが、謝金や期日等でなかなか適任者が決定できなかった。しかし、社会体育の指導者については、日本の第一人者桑野豊氏以外はないものとして、無理に了解をお願いした。熱中症については、運動生理学者が候補にあがっていたが、医師で熱中症を研究して来た主任の川原貴氏にお願いすることが出来た。最後に地元のテーマで要望する講演は、サッカーやバレー、体操などの候補者があげられたが、サッカーのJリーグを話題に、甲府クラブ等の活躍を考慮して、川渕チャマン、岡野IOC副会長、浅見Jリーグ審判委員長等について、会長に一任され、関係者に相談して、岡野俊一郎氏が昔のサッカーの友として了解していただいた。

次は当日の出席者を確認するために、事務局が中心となり、各方面に協力を呼びかけた。スポーツ指導者は全員で約六〇〇名、その他の関係でサッカー協会や各市町村体育協会から参加してもらえ人数を把握したが、ぎりぎり二〇〇名を越えられる程度の見通しであった。

一九六四年八月六日、例年になく猛暑で、熱中症が発生するような日であった。各スポーツ指導協の理事の方々は午前中から準備にかかり、あとは参加者をまつばかりであった。開会後約二〇〇名前後と聞き、ほっとした。以下各演者の講演概要は各紙で紹介しているが、再度記載することにする。

桑野 豊（仙台大学学長）

「国民スポーツの振興と社会体育指導者の役割」

現代の国民スポーツの事情は多様化し、高度化時代を迎えている。テレビの放映時間も年間四、〇〇〇時間、新聞の発行部数九〇〇万部、スポーツ用品も四兆円の売上げ、スポーツ産業一〇兆円と膨大なものになっている。この様に現代はどこでもスポーツが氾濫している。

スポーツ人口の構造から見ると、無関心層から組織スポーツ人口まで、幼児から高齢者まで、質的には遊びからプロスポーツと広範囲に渡っている。

社会体育の指導者はこれまでは、上から指導してやるタイプの方が多かった。しかし、これからは求めに応じて愛されるタイプの指導者が求められる時代になって来た。

スズメの学校の先生タイプからメダカの学校の先生のタイプが求められている。権威より魅力のある学習の場・温かい気づきづくりが大切である。

指導内容は、何を、何処で、何時、誰が、何故、どの程度、どの様に、指導するかを自分に問いかけながら行う必要がある。

指導の結果は考えることによって、学ぶことを理解させることである。

川原 貴（東京大学助教）

「スポーツ活動と熱中症」

熱中症とは暑い環境下の激しい運動で起こる障害である。熱失神・熱疲労・熱けいれん・熱射症などがある。

熱中症とは七月から八月頃の十時から十八時頃で、気温が三〇・七℃、湿度五九・二%以上の環境で、持続的運動している時に発病することが多い。

救急処置は涼しい所で休憩させ、〇・九%の食塩水を補いながら、全身に水を掛けながら体温を気化熱で放熱させることがよい。

もし体温が四〇℃もある時は、大変危険な状態なので、至急専門医の診察を受ける必要がある。

熱中症の予防の八ヶ条をあげると、

- ①熱中症を正しく理解する。
- ②暑い時は無理をしない。
- ③急激な暑さは注意をする。
- ④失った水と塩分は補給する。
- ⑤発汗と体重の減少をよく知る。
- ⑥通気性のよい衣服を身につける。
- ⑦体の不調ときや不良なときは要注意。
- ⑧熱中症はあわてるなされど急ごう救急処置。

この八ヶ条をよく理解して、対応することが大切である。

岡野俊一郎（日本サッカー協会副会長・IOC委員）

「サッカーのプロ化とスポーツの振興」

サッカー協会はプロとアマの区別はしない。Jリーグは地域のスポーツのコミュニティセンターの役割を果している。

日本のスポーツは学校体育を基盤に発展してきた。しかし、体育は訓練するものであり、スポーツは楽しむものであり、本質的には異なるものである。

世界の九五%の国はスポーツクラブによってスポーツが発展して来たが、日本はこれとは異っている。

スポーツクラブに所属する子供たちは一貫性のある指導を受け、プロのプレーを見

ながら育ってきた。自分の好きなスポーツを自由に選び、複数のスポーツから自分の個性にあった種目を選ぶことができる。日本もこれを参考にする必要があるのである。

スポーツは生活文化遺産であり、地域に密着して発展することが望ましい。

二〇〇二年のワールドサッカーの誘致も地域のサポート、運営は企業の協力、地方自治体の施設設置の理解が不可欠である。

今回のエンジョイ・スポーツセミナーに参加された人達は有意義だったと思う。

参加した人達からアンケートをお願いし、約一〇〇名から回答を得た。（この内容は別に発表される。）参加できなかった人達のため講演資料をVTRに収録してあるので、利用して欲しい。

一九九五年もエンジョイ・スポーツセミナーを企画して欲しいと言う要望がある。

スポーツ指導者の各位に、ぜひ次の機会には出席して、新しい知識とそれを求める意欲、そして指導者相互の協力が山梨県のスポーツ指導者の質の向上にもなり、しいてはスポーツのレベルアップにもなるものと思われる。

エンジョイ・スポーツ セミナーに参加して

C級スポーツ指導員(テニス)石和町

井上啓子

スポーツ産業が一〇兆円規模という大型になり、スポーツが国民生活に浸透している現在、スポーツの必要性を強調する時代から人々の求める多様なスポーツをいかに保証するかが大切な時代になって行くと仙台大学長、桑野豊先生は話されました。私たち指導者もただスポーツを指導すればよいだけではなく、指導する対象者のおかれている状況を見きわめ、それに応じた指導が必要になってくるのかも知れません。

これに順じて、「熱中症」についての川原貴先生の講演は酷暑だった今夏、とてもタイムリーでした。死に至るといふ熱中症。予防も可能でもあるにもかかわらず、啓蒙も不十分で未だ多くの事故例があると聞きまます。頂いた「熱中症予防ガイドブック」を有効に利用し、少しでも啓蒙できたらと思います。

最後の講演は岡野俊一郎先生でした。岡野先生と言えばサッカーです。開幕年のJ

リーグ・ファイバー。私も心良く思っていないかもしれません。プロ化と騒がれて、選手が芸能人のように振舞い、サッカー選手でなければスポーツマンではないという風潮。異常でした。しかし、岡野先生のお話しを聞きJリーグの真の目的がわかり、考えを新たにすることができました。スポーツクラブの設立、確立を目指しているというJリーグ。この真の目的を知っている人は少ないのではないのでしょうか。もっと啓蒙する事で、皆のJリーグを見る目が違ってくるように思います。Jリーグの理想を現実にするように底辺でお手伝いできればと私も思いました。

生涯スポーツで健康を

C級スポーツ指導員(バレーボール)敷島町

赤沢政子

私達のクラブは「若い選手には付いていけないけれど、私達なりにバレーボールを続けたい」と言う人達の強い希望で、平成二年に結成した。

最初は小学校の体育館で、週一回体力維持と、スポーツを楽しむ事が目的であった。

回が重なるうち、やっぱり試合にも出たいと言う事になり、練習も週二回(一晩二時間)となった。試合に出るにはチーム名をと若向きの名前を皆で考え、フラワーズとなった。

体力づくり、基礎技術、連係プレーに熱気。平成四年家庭

婦人バレーボール大会二部に出場三位となり、皆の夢は膨んだ。平成六年には、若い初心者の参加もあり、巾広い交流に、基本からの人、厳しい練習の経験者等、体育館は、二十人前後が集まり、年代を感じさせない動きと声が響いた。個人差、体力差のある中、無理せず楽しく、技術を習得する為に、ミーティングを行い、指導の理解をしてもらい、クラブの基本姿勢を全員で試合をし、ストレス解消することとした。

この基本姿勢を忘れず、チーム全員が一つのボールを追いかけ楽しむ楽しさ、連帯責任を負うところに、バレーの良さを再認識できた。平成六年九月には、シニアの部関東



大会に参加、苦楽を味わい、裸の付き合いで、一層親睦も深まり新たな挑戦を誓った。地域スポーツクラブ活動助成の指定を受け、新に自分を認識すると共に、バレーボールを通じ、共通の話題を持ちながら、与えられた私達の人生を、若く美しく明るく健康を謳歌できるよう、研修、大会等一回でも多く参加し、皆様に少しでも、満足いただける指導が出来るよう、頑張りたいと思います。

地域スポーツ団体を を発足して

C級スポーツ指導員(空手)甲府市

窪川正彦

平成五年六月、空手道泊親会窪川道場として発足し、二年目を向かえようとしている。発足した動機は、私が平成五年四月に、現住所の甲府市和戸地区に永住をと転入したのを機会に、地域住民(特に青少年)に長年続けている空手道を通じて、コミュニケーションが取れないものかと思案した結果であった。早速、地元知人に話を持ち掛けたところ、ぜひ子供(本人も含めて)に教えてもらいたいとの二つ返事を取り付け



ため、甲運小学校に体育館使用を打診した結果、週一回(木・土)に借用がかない、念願であった「ふれあいの場」を得たのである。

当初は七名

(一般一名)で

あったものが現在では三五名の会員が共にこころ良い汗を流している。

練習のモットーとしては、楽しさの中に武道の特色といえる「礼儀」を重んじた方針に心掛けています。また、幼児から一般までの活動なので指導方法が、問題となるので指導者の育成が重要と考え、試行錯誤を重ねている。そんな中で昨年末に外国人の練習生が第一号の黒帯を取得し、目を輝かせて練習・指導にと汗を流す姿を見ると、熱いものがこみ上げてくる。

また、子供の活動を通じて地域住民(家族等)が当活動に関わってくるのであるから、交流関係は幅広いものが期待できる。こうした意味においても、地域スポーツ事

業対象クラブの指定を受け、勉強する機会を得たことに感謝し、地域スポーツの振興に微力ながら尽くしていきたい。

信頼と努力が

もたらしたもの

国体なぎなた成年女子監督
C級スポーツ指導員(なぎなた)塩山市

鮎沢房枝

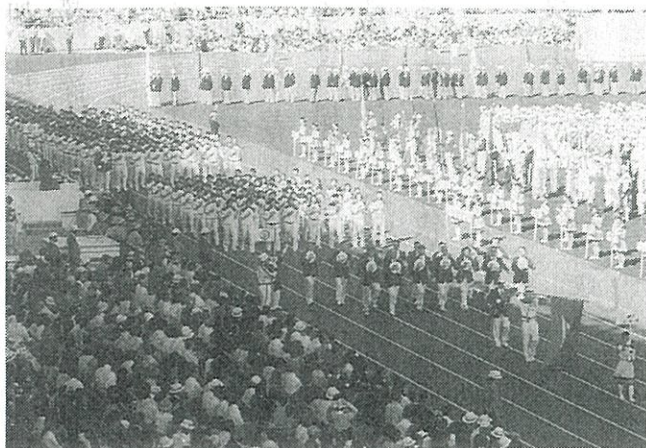
平成六年十月二十日、スポーツ会館で開催された、わかしゃち国体監督会議の席上、決意表明の「しんがり殿」を受けて私は、「四位入賞を目指して頑張る」と言明した。言ってしまうから慌てたのは言うまでもない。その夜、小瀬の体育館で行なわれた強化練習の挨拶で「大目得を切ってしまったからどうか助けて欲しい」と懇願して、選手に大笑いされてしまったのを恥ずかしく思いつく。

平成六年も、まず、成年二部の選手を擁し、三種別そろって団体にエントリーすることを目標として、全力を傾注して臨んだ。あらゆる機会をとらえて、でき得る限りの遠征・合宿・日帰り練習に取り組んだ。時には全員で、又時には分散しての必死の

努力が一人一人の技術の向上と心の結束を強め、闘う自信を育ててくれたと思う。

当初の目標通り、三種別十二名で参加したわかしやち国体で、少年は演技八位、成年二部は四位に入賞、成年一部は期待した演技で、二対三の判定を受け、無念さをかみしめながら試合競技に臨んだ。

まず初戦の相手沖繩を破って次第に調子を上げていき、準々決勝の地元「愛知」にも作戦通り落ち着いて勝ち上ることができた。決勝戦の大阪とはいっても対戦していたので緊張はしたが焦らずに闘い、大将戦で優勝を勝ち取ることができた。大将の相手チームに
対する読みと作戦の確かさ、先鋒が中堅に、そして大将にとお互いを信頼し一戦一戦大切に繋いでいったチーム



ワークが大きな勝因であったと思う。
又、スタンドからの声援(父兄・選手団・

広島アジア大会に思う

B級コーチ(陸上) 増穂町

山梨陸上協会 宮澤千秋

連盟関係者)も心強かった。まさに総合の勝利と言えよう。

アジアのアマスポーツの正しい発展と、五輪運動の理解を広めていくことに憲章の主テーマをおき創立されたアジア大会は広島で十二回目を迎えた。ビックアーチを埋めつくした観衆は選手団の入場が始まるや興奮の坩堝と化していた。被爆都市から立ち上がり、平和への象徴を訴え続けてきた市民の感慨もひとしおであっただろう。大会は開幕前から中国・台湾・北朝鮮の政治的問題に揺れ動き、開幕後はドーピング問題等で課題を残したが、アジアの新しい地図も変わり、史上最多の四十二ヶ国・四、六七〇人の選手が三十四競技に熱戦を繰り広げた。

私はソウル・北京・広島と連続三界の視察をしてきたが、最大の関心事は「その都市らしさの表現」であった。広島大会は第一に、初の地方都市開催で話題を集めたが、著しい経済復興を遂げ、交通網や施設を充

実させ、ホスト役も十分に果たしていた。第二に、被爆都市が開催することの関心が強烈であったが、意外に「平和」へのメッセージが弱く、もっと前面にこのことを押し出してもよかった。第三に、国際化推進という面では、成果も大で、「一館一国運動」のように公民館活動と国際交流を結びつけた試みは素晴らしかった。最後に、ボランティア活動推進の面では、過去に見られぬ程の成果で、本格的な市民スポーツを盛り上げている広島ならではのとりくみであったように思う。

私達は日体協指導のもとに、全国の視察団の一員として活動したが、本県からは雨宮・上田・一木・尾谷の各氏と私の五人の参加であった。視察を通して本県スポーツ界の有り方を論ずる機会も多く、私にとっ

「山梨県スポーツ指導者連絡会議(研修会)」に参加して

C級スポーツ指導員(陸上・卓球)山梨市

中村直人

平成六年四月二十四日、勤労成年センターで開かれた、山梨県スポーツ指導者連絡会議(研修会)に参加した。スポーツの指導者の方々と接する数少ない機会でもあり、いろいろな情報が得られる場で、今回は三回目の参加で、一つでも自分のものにして帰れたら…という気持ちで臨んだ。

山田先生から、「公認スポーツ指導者海外研修派遣事業に参加して」という講演を聞いた。イギリス・ノルウェー・ギリシャを中心としたスポーツ組織、施設の様子がわかりやすく話され、興味深く聞くことができた。中でも、ノルウェーのノルディックスキーに関するお話は、オリンピック直後と言うことと、私自身、クロスカントリースキーの競技者(愛好者?)ということもあって、メモを取りながら夢中で聞いた。一木先生の「中国のスポーツ事情」の講演があった。中国の体育学校の様子、高度な体操競技等、ビデオ、スライドなどを見ながら、楽しく話が聞けた。何億人の中から選ばれた子ども達が、生活をかけて、ハ

ングリーに競技する姿は、どこか悲壯的だった。

野呂瀬先生の、「ニュースポーツ」の実技講習があった。実際に体を動かして、汗を流した実技講習が、自分には一番楽しく、印象深いものとして残っている。「ニュースポーツ」は、実際にやってみることで、その楽しさを実感することができた。特にユニホックは、ルールも簡単だし、エキサイトした。後日、山梨大学から道具を貸して頂き、学年の親子レクレーションで実施したところ、大いに盛り上がった。

一年に一度の研修会に参加することによって、いろいろな情報が得られたと思うし、「指導者」について考えを深める機会が持てたことは自分にとってプラスになった。これからもいろいろなスポーツ活動に参加して、楽しみたいと思っている。また、それらを少しでも子ども達に還元できたら、もう一つのまた違ったスポーツ観が得られるような気がする。

(財)日本体育協会公認スポーツ指導者 (平成6年10月1日現在、山梨県)

合計	旧資格	少年スポーツ	プログラマー	ホッケー	カーヌー	柔道	馬術	スケート	体操	なぎなた	空手	山岳	ラグビー	弓道	バドミントン	ソフトボール	卓球	ソフトテニス	ハンド	ヨット	バスケット	バレーボール	テニス	スキー	サッカー	水泳	陸上	資格名	
																												競技名	指導員
463	-	-	-							12	13	90	17	5	30	3	19	48	5	5	8	86	15	4	25	53	25	C	指導員
117	-	-	-												10		2	2			3	5	9	84	1	1		B	指導員
3	-	-	-																			1	2				A	指導員	
26	-	-	-		4	2	5	1	1		5						1		1			1			1	4	C	コーチ	
23	-	-	-	1	1			1			1	2	3									6			6		2	B	コーチ
13	-	-	-					1	1									1			1	1			7		A	コーチ	
19	-	-	-																				1	6		12	C	教師	
5	-	-	-																					3		2	B	教師	
1	-	-	-																						1		A	教師	
794	40	13	78	1	5	2	5	3	2	12	19	93	20	5	40	3	22	51	6	5	12	99	26	99	40	69	31	計	

平成六年度事業報告

- ◎4月5日(火) 第一回理事会
 - ・平成五年度事業報告(案)・決算報告(案)について
 - ・平成六年度事業計画(案)・予算(案)について
 - ・役員の変更(案)について
 - ・支部組織(案)について
 - ・総会・研修会について
- ◎4月24日(日) 総会
 - ・平成五年度事業報告(案)・決算報告(案)について
 - ・平成六年度事業計画(案)・予算(案)について
 - ・役員の変更(案)について
 - ・支部組織(案)について
- ◎4月24日(日)山梨県スポーツ指導者連絡会議(研修会)
 - ・海外研修に参加して 講師 山田 泰男
 - ・中国のスポーツ事情 講師 一木 昭男
 - ・ニュースポーツ 講師 野呂瀬 秀
- ◎5月26日(木) 第二回理事会
 - ・エンジョイ・スポーツセミナー
 - ・支部組織について
- ◎7月2日(土)～三日(日)
 - ・第一回全国スポーツ指導者連絡会議関東ブロック会議 群馬県水上町
 - ・研究協議「公認スポーツ指導者制度の充

実」

- ・基調講演『ヨーロッパにおけるスポーツ指導者について』
- ・事例発表『体操クラブの指導・育成について』
- ◎7月11日(月) 第三回理事会
 - ・エンジョイ・スポーツセミナー
 - ・支部組織について
- ◎8月6日(日)エンジョイ・スポーツセミナー 敷島町文化会館
 - ・『国民スポーツと社会体育指導者の役割』 仙台大学学長 桑野 豊
 - ・『スポーツ活動と熱中症』 東京大学助教授 川原 貴
 - ・『サッカーのプロ化とスポーツ振興』 IOC委員 岡野 俊一郎
- ◎12月20日(火) 第四回理事会
 - ・支部組織について
 - ・会報・第五号について
- ◎1月23日(月)～三月二三日(木) 支部組織検討会
 - ・県下七地区において支部組織準備検討会
- ◎3月27日(月) 第五回理事会
 - ・支部組織について
 - ・平成七年度事業計画について
- ◎3月31日(金)会報第五号・名簿発刊

会費の納入について

山梨県スポーツ指導者協議会は、県内におけるスポーツ指導者の意識を高揚し、指導者としての資質の向上と相互の連携を図り、県民スポーツの普及に寄与することを目的に諸事業を行っております。

この協議会は、会員の会費と県体育協会の補助金で運営しております。会費は、平成四年度から二千元(四年に一度)を登録・更新時に納入して頂くこととなっておりますので更新時には、日本体育協会登録金とあわせて二千元を山梨県スポーツ指導者協議会に納入をお願いいたします。

(財) 山梨県体育協会
山梨県スポーツ指導者

協議会事務局宛

〒四〇〇 甲府市緑が丘二一八一二
TEL 〇五五二一五三一 一九〇六

*現金書留または事務局まで持参してください。